

編集後記

学校は、子ども達が主役であること、そして教師は、学校生活において子ども達と一緒に何かを創り上げることが、最大の喜びであることをあらためて気づかせてもらいました。教えることよりも教えてもらったことのほうがたくさんありました。

当日、成長した子ども達の姿を広い体育館で父母の方をはじめ、多くの方と見届けられたことは、とても素晴らしい時間だったと思います。2年後、この貴重な時間を過ごす為に、教師は日々、子どもと授業に向き合っています。

初等部 高橋 出

高1年の担任として、学業報告会高1の「読書」の報告の協力をした。まとめることはたいへんであったが、生徒達が日々の学校での実生活を通して、学園の精神を学び考えとても良い時となっていた。指導して下さった先生方に感謝である。

女子部 星住リベカ

2013年度は、1年振りに学業報告会を行いました。今号には、その中から各学年が報告した学科の報告の指導記録を掲載しています。当日の発表では見えなかった準備の様子や発表後の生徒の感想をご覧いただければ幸いです。

男子部 山縣 基

フードロス問題を、身近な昼食の問題から考えた卒業勉強、海山の植林地について考えた論文、これまであまり注目されてこなかった生活学校に関する調査と、報告会では学園らしい研究発表が今年度も見られました。そうした学園らしい研究の継続とともに、教育力・研究力のさらなる向上と、社会への還元を今後も進めていきます。社会への発信手段として新しく『最高学部紀要』を電子版で刊行できるよう準備中です。

前任者から引継ぎ、編集委員として最初の号でした。なれない点もあり、ご迷惑をおかけしました。

最高学部 奈良忠寿

21世紀型教育を目指す学校が増え、その教授方法が取り上げられています。方法論から入る教育のあり方は、時間の流れの中でどのように完成されていくのでしょうか。

学園教育には、今回の学業報告会のように創立以来の伝統的な学びの形があります。そこには、生徒自ら一から取り組み、努力を重ねて発表まで、互いに協働し学び合う原型があります。その学びを成立させているのは、日々の生活を通して学ぶ経験そのものです。

一貫教育の各段階で、誠実に真理を求めて学ぶ教員の真摯な姿勢とそれに響きあう児童、生徒、学生の学びの記録を本年度も残すことができたことに心から感謝をいたします。

尚、2013年度自由学園年報第17号よりホームページに掲載を行うようになりました。広く多くの皆様に学園の教育を知っていただく機会となることを願っています。

女子部 梶野ルミ子